



魚沼総局
〒949-6680
南魚沼市
六日町 479-3 2F
025(772)2044
FAX(772)3399
n-uonuma@niigata-nippo.co.jp

十日町支局
〒948-0037
十日町市
妻有町東 1-5-12
025(752)2168
FAX(752)3965
n-tokamachi@niigata-nippo.co.jp



小学生時代 魚沼に在住

岩波書店元編集者・井上さんが本出版



小学生時代を小出町（現在の魚沼市）で過ごした岩波書店の元編集者、井上一夫さん(73)＝埼玉県三芳町＝がこのほど、印象に残った著者の言葉をまとめた「渡された言葉 わたしの編

集手帖から」（本の泉社）を出版した。編集を担当した放送作家の永六輔さんや作詞家の阿久悠さん、新潟大学教授を務めた古厩忠夫さんら17人のエピソードが紹介されている。

著者の言葉 次代に渡す

阿久さんの「書き下ろし歌謡曲」（97年）には、未発表の詞100編が収録されている

永さんは「大往生」（1994年）で、病气や死に関する言葉を集めた。「病人が集まると、病気の自慢をするんですよね。もちろん、重い人が尊敬されるんです」「死ぬという事は、宇宙とひとつになるということ」。永さんはこの本を「ラジオ本」と名付けた。井上さんも同感だった。「ラジオでは聴いてすぐ分かる言葉でなければならず、ややこしい理屈ではない方がいい」からだ。

井上さんは福井県生まれ。小1から小4まで小出小に通い、富山県に移った。東京大学を卒業して1973年、岩波書店に入社。新書編集部、営業部などを経て取締役となり、2013年に退任した。この間、岩波新書など約150冊の編集に携わった。10年10月から11年7月まで本紙文化面に「語録あつてほくの出版現場リポート」と題して36回の連載コラムを執筆。これが本の下敷きになっている。

永六輔さん、阿久悠さん、新大教授・古厩忠夫さん

17人のエピソード紹介

岩波書店に40年勤務し、印象に残った著者の言葉をまとめ、「渡された言葉」を出版した井上一夫さん＝埼玉県志木市

本に登場する人物

「渡された言葉」に登場する他の人は次の通り（敬称略）。青木和夫（歴史研究者）、田中琢（考古学者）、佐原真（同）、阿波根昌鴻（沖縄反戦地主）、嵐芳三郎（歌舞伎俳優）、姜信子（作家）、関屋晋（合唱指揮者）、山藤章二（イラストレーター）、矢野誠一（芸能・演劇評論家）、鈴木敏夫（プロデューサー）、井波律子（中国文学者）、小室等（フォーク歌手）、伊奈かつべい（マルチタレント）、高畑勲（アニメーション映画監督）

井上さんは本を出版した動機について「著者から受け取った言葉を次の世代の人へ伝えたい。上から渡すのではなく、下からそっと手渡したい。手渡すに足る言葉を整理した」と話した。「渡された言葉」は四六判、222页、1500円。

古厩さんは「裏日本」（97年）で、この呼称は20世紀初頭、「表日本」に対するヒト、モノ、カネの供給地とされていく中で定着したと指摘した。中国近現代史が専門で、このテーマに取り組んだ理由を「新潟大学に勤めたから」と話した。井上さんは「古厩さんは」自らが住み、学生を指導、教育している地域について無関心でいることはできない」と理解したという。

「阿久さんは井上さんに『豊かな時代になったと言われているけど、何かしら飢餓は存在している。この見えない飢餓にボールをぶっつけて、ああ、それそれ』と言わせるのが歌なんですよ」と語った。井上さんは「阿久さんの語り身に任せる。これはまさに快感であった」と振り返った。